

ら は た 訪 探 史 歴 65 其の クラブ

TAHARA
History Inquiry
Club

渥美半島から消えた
動物たち

ニホンアシカ

現在見る水族館の人気者、アシカは、日本産の「ニホンアシカ」ではありません。ニホンアシカは1974年に北海道で捕獲されて以後、生息情報はありません。

さて、田原市にある伊川津貝塚・保美貝塚では、このニホンアシカの骨が見つかっています。また、江戸時代の地理書「参河国名所図絵」には、伊良湖の項に、岩礁に寝そべるアシカの図とともに、「当所に多し海中に岩あり岸を離るる事少許其

岩上に出て遊ぶ人を見る時は必ず海底に入る・略」と、ここに生息するアシカと、他の書から引用した解説を記しています。そして、柳田國男の「遊海島記」(明治30年の紀行文)にも、古老がかつてアシカを撃ちとめたことが記されています。

伊良湖では明治39年までアシカの生息が確認されていますし、三河湾に浮かぶ篠島でも、明治20年まで確認されています。三河湾はかつて、日本有数のアシカの生息地だったのです。

ニホンカワウソ

ニホンカワウソの骨も、吉胡貝塚・伊川津貝塚から見つかっています。田原市ではありませんが、隣の豊橋市老津町では、明治44年『渥美郡時報第3編第12号』の「老津村郷土誌教授資料」に、カワウソ生息の記載があります。しかし、カワウソの生息情報は1979年、四国でのものを最後にとどめました。明治・大正には毛皮目的の捕獲により激減したほか、水質悪化や護岸工事によって



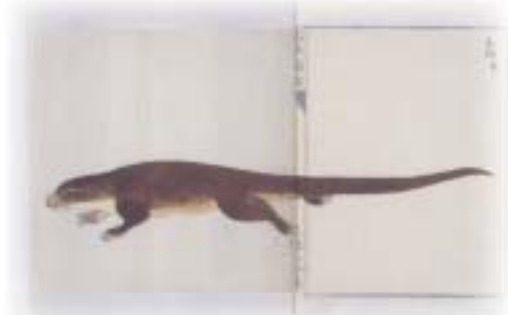
伊良湖のアシカの図(参河国名所図絵)

生息環境がなくなったためと考えられています。すでに生息情報のなくなったカワウソですが、明治時代くらいまでは、河川に普通に生息し、あいきょうを振りまいていたのでしよう。

ニホンオオカミ

伊川津貝塚では、ニホンオオカミの骨も見つかっています。ただ、田原市ではそれ以降の生息記録は残っていません。日本では1905年、奈良県で捕獲された記録があります。これが以降の確実な生息情報はなく、この後まもなく絶滅したと思われます。

オオカミはシカ・イノシシといった、農作物を荒らす動物たちを追いつつことから、信仰の対象にもなっ



ニホンカワウソ(本草図説より 西尾市岩瀬文庫蔵)

ていました。また、獲物を食らいついたら放さない鋭い牙は、魂を体につなぎとめておく、「まじない」的な意味も持っていたようで、伊川津貝塚からは臼歯(きんこ)を使ったペンダントも見つかっています。

皆さん、渥美半島にかつてこれらの動物たちが生息していたこと、信じられますか？(増山)

文化財課 23局3531

前号でニホンカワウソ・ニホンアシカが日本で絶滅している」と書きましたが、正式には「愛知県で絶滅している」でした。

環境省ではこれらを絶滅危惧種(A・C・R)とランクし、近年、絶滅する危険性が極めて高い(長い間生息が確認されていない)動物として扱っています。



ニホンオオカミ(本草図説より 西尾市岩瀬文庫蔵)